

【山陰インバウンドニュース 1月号】

令和4年1月27日
(一社)山陰インバウンド機構

【山陰ツーリズム人材育成塾】塾生による最終発表会のご案内

「山陰ツーリズム人材育成塾」は、観光地域づくりに携わる主体をつなぐ資質・能力を持つ人材を育成し、地域経済の活性化を図ることを目的に、山陰インバウンド機構と島根大学が連携し令和3年度からスタートした観光人材育成事業です（※修了者には大学から履修証明書を発行）。

今年度は21名の塾生（社会人）が入塾いたしました。塾生たちは、知識習得講座や先進事例の視察調査で観光事業に関する知識を習得するとともに、塾生自身の観光事業・商品開発のプランづくりに取り組んで参りました。

本最終発表会では、塾生各自の学びの成果（事業計画・旅行商品企画等）を発表いたします。発表会の場で、山陰地域の観光事業者様、自治体関係者様等との対話により、さらに計画に磨きをかけ、地域全体の観光振興の機運を盛り上げることができればと願っております。

コロナ禍の折、また大変お忙しいところとは存じますが、どうかご参加下さいますようお願いいたします。

◇日時：2022年2月12日（土）13:00～17:00

※一部のみの参加も可能です

◇会場：オンライン実施

※お申し込み下さった方に参加方法をご案内いたします

◇参加申込み：<https://forms.office.com/r/T046suHD2P>

※お申込み締切日は2月7日（月）とさせていただきます。

なお、人数に制限がございますのでお早めにお申し込みください。

※詳細につきましては、下記の機構ホームページをご参照ください。

【山陰インバウンド機構 HP】https://www.sanin-tourism.com/news_dmo/seminar_information/8155.html

【2/17・18開催】「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」参加者募集中

この度、観光庁監修・全国通訳案内士による研修「地域の観光人材のインバウンド対応能力強化研修」について山陰地域での開催が決定いたしました。地域の観光案内所や宿泊事業者等観光におけるサービス担当者等に向けた実践的な研修となりますので、ぜひご参加いただきたく、ご案内いたします。

◇日時

2月17日（木）13:30～17:20

【カリキュラム】初級クラス

・基本講義 「外国人を恐れない心構えと異文化への配慮」「スマートフォン等を活用した多言語翻訳ツールの使い方」等

・初級英語会話・中国語講師による研修

2月18日（金）13:30～17:20

【カリキュラム】中級クラス

・基本講義 「外国人対応の基本を学ぶ」「スマートフォン等を活用した多言語翻訳ツールの使い方」等

・英語会話・中国語講師による研修

◇開催方法：オンライン（Zoomで開催します）

◇定員：両日ともに30名を想定。

◇申込方法：申込書（下記URLからダウンロードできます）を記載の上、山陰インバウンド機構までメールまたはFAX（0859-21-1524）にて申込み。

◇申込締切：2月4日（金）17時まで

※詳細につきましては、下記の機構ホームページをご参照ください。

【山陰インバウンド機構 HP】https://www.sanin-tourism.com/news_dmo/seminar_information/8122.html

インバウンド回復に備え、米子エリアで滞在型観光商品を開発

山陰インバウンド機構では、宿泊客の消費活動の中心となる旅館・ホテルと、地域の魅力ある資源を組み合わせた滞在型観光商品の造成・販売の支援を行い、訪日客による山陰各地域での消費活動が促進される取組を進めています。

今年度は、観光庁補助事業「広域周遊観光促進のための観光地域支援事業」を活用した「旅館ホテルと連携した新たな販売ネットワークの構築事業」として展開。山陰地域のインバウンドニーズの高い温泉地や宿泊拠点を中心に10の宿泊施設(米子においては宿泊施設群)を選定し、旅館ホテルに滞在しながら体験できる、地域資源を活かしたコンテンツ造成を進めてきました。

この度、米子市と連携しながら「475(よなご) BAR HOPPING」を開発。ホテル6施設、飲食店9施設が参加しており、ホテルでセットプランを購入し飲食店2店舗を巡って「特別メニュー」を楽しむプランとなっています。

【参考】<https://475project.wixsite.com/website-1>

インバウンド回復期を見据えたこのような取組は、インバウンドの滞在周遊を促し、地域経済活性化に資することが期待されます。当機構では、引き続き、地域の積極的な取組を支援していきます。

<今年度の対象エリアと開発したコンテンツ例>

対象エリア	宿泊施設	開発したコンテンツ
米子、大山、三朝 鳥取、松江、出雲、 大田、安来	山陰のホテル 旅館10施設	○修験道衣装で行く三徳山修行体験 ○松江城早朝登閣や職人の技(漆器・お茶)体験 ○米子市内の飲食店を巡ることができる特別プラン 等

地域と連携した新たな観光サービス開発の取組

ゆのつ 温泉津でモニターツアー～在住外国人がろうそく 蠟燭神楽 かぐらめん 神楽面の絵付けを体験～

当機構では、地域が独自の観光資源を活かしながら主体的に観光商品を開発・改善していく取組を支援する「観光商品開発マニュアルを活用した地域プラットフォーム事業」を山陰各エリアで展開しています。

当該エリアの一つである島根県温泉津では、本年度、行政や観光協会と連携しながら「新たな観光サービス」の開発に取り組んでおり、その一環として、12月10日と11日にモニターツアーを実施しました。

ツアーには、島根大学のスリランカ人留学生2名が参加。蠟燭の炎が照らし出す蠟燭神楽、銀山の物資供給基地として栄え当時の情緒が色濃く残る温泉街の町並み、神楽面絵付け体験を楽しみました。ツアー中は、現地在住の工藤氏がガイドとして同行し、各ポイントで温泉津の歴史を交えながらゲストの関心に応じた説明を行いました。今後はモニター参加者の意見・アドバイスを踏まえ、外国人観光客に商品として提供するために必要な改善を行っていきます。



自然を生した観光振興の取組

「江府・木谷沢溪流の自然環境を守るモニターツアー」が開催されました

江府町は、自然環境の保護と誘客による地域活性化を両立させる新たな観光の取組を進めています。その一環として、奥大山エリアの名所の木谷沢溪流（江府町御机）等の観光素材の活用策を探るため、1月15日、「江府・木谷沢溪流の自然環境を守るモニターツアー」が開催されました。

モニターツアーは、溪流の魅力を伝え環境について考えてもらうきっかけとなるような手法を検討するため、江府町が企画。昨年12月から計3回のモニターツアーが開催され、15日に開催された最終回のツアーには県内から14名が参加しました。

当日は天気にも恵まれ、一行は雄大な大山を眺めながらバスで溪流に到着。奥大山の自然に精通した江府町観光協会認定の奥大山ガイドの永登瑠璃氏の案内で、積雪1メートル以上の木谷沢溪流の中を散策しました。最初はシュノーシューに苦戦していた参加者も、雪道での歩き方のコツを覚えると新雪の上を一步一步踏みしめながら、雪に覆われた木々や溪流の幻想的な世界を満喫しました。要所では永富氏が、SDGsをテーマに説明。「ミズナラは、昔、まきや炭の原料として使われ、切った後はその後には苗を植樹し里山が維持されてきた。しかし、人の手が行き届かなくなると藪が茂って野生生物が出現するようになり、人間との距離が縮まった。また、管理されなくなった林ではナラ枯れの被害を受けやすくなり、木谷沢溪流でも被害が深刻化している」と説明、さらに「できるだけ多くの方が現在起こっていることに関心を持っていただくことが自然を守ることに繋がる」と呼びかけました。

江府町では、今後、奥大山エリアの観光資源を活用した企業研修やエコツアーの提供等も検討されており、今後も同町の取組に注目したいと思います。



「Discover Another Japan Pass」参画施設のご紹介

みとく

三徳山三佛寺～大自然と調和する荘厳な寺院～

当機構では、中国地方の外国人個人旅行客の市場創出や山陰への誘客多角化に向け、観光施設や交通機関を利用できるデジタル周遊パスポート「Discover Another Japan Pass」（以下、「DAJP」という。）を開発。現在、魅力的な観光施設や交通機関、体験コンテンツを掲載するなど、「DAJP」の更なる魅力度向上に努めています。今回のインバウンドニュースでは、新たに「DAJP」に参画いただいた三徳山三佛寺をご紹介したいと思います。

鳥取県東伯郡三朝町の東部に位置する霊山「三徳山」。山岳修験の場としての急峻な地形と神仏習合の特異の意匠・構造を持つ歴史的な建築物を有する当地は、隣接する三朝温泉とともに名勝地として知られています。この霊山に境内を持つ山岳寺院が三徳山三佛寺です。参道に並ぶ三つの寺院を過ぎ、本堂の裏手から険しい参道を登っていきながら、断崖絶壁に立つ日本一危険な国宝として有名な、奥院の投入堂に参拝登山します。

「西洋では山は登ることで恐怖を克服する対象ですが、日本の山は命をもらう場所。自然崇拜の対象なので、同じ登山とはいえ、山を敬う気持ちを持って登らなければなりません。大自然には神々が宿るものとして自然を崇拜する感覚は、日本人に深くしみ込んだものです。」と教えてくれたのは、執事次長の米田良順（りょうじゅん）さん。

コロナ前は外国人の方も多く訪問されていたとのことで、「欧米の方はこのような日本人独自の自然に対

する考え方に強い興味を示されます。外国人観光客の方は京都の寺社を訪問されるのですが、より深い日本の文化や歴史を体験できる観光資源がここ三朝にはあります。新型コロナウイルスが落ち着いた後には、このような日本に関心のある外国人の方に訪れていただきたい。」とインバウンド回復に期待を述べられました。

また、三朝町は、2015年に文化庁が認定する「日本遺産」の第1号に認定され、国内外からの観光客誘致等を通じた地域振興に取り組んでいるエリアでもあります。米田次長は、「日本遺産では、地域の魅力的な文化や伝統からなる「ストーリー」を作り、地域が一体となってその保存だけでなく活用を進めていくことが強く求められています。今回、日本遺産審査・評価委員会の再審査で条件付きではありますが引き続き認定を受けることになりました。今後は関係者と連携しながら、三徳山や三朝温泉という魅力的な観光資源を活かした観光客誘客と地域振興を進めていきたい。」と強く意気込みを述べられました。

当機構としても、今後のインバウンド復活を見据え、「Discover Another Japan Pass」等を通じ、地域が主体となった観光による地域振興の取組を支援していきます。

(三徳山三佛寺 : <https://mitokusan.jp/>)



(三徳山投入堂)



(三朝温泉の様子)

観光関連統計等

山陰への訪日外国人延べ宿泊者数※観光庁宿泊旅行統計調査（従業員10人未満の施設を含む）

期間	山陰への訪日外国人宿泊者数（鳥取/島根）	比較
2021年10月	1,380人泊（鳥取540人/島根840人）	（2020年10月）1,490人泊 （2019年10月）25,320人泊
日本全体の現状 2021年10月 （速報値）	298,750人泊 ※観光庁宿泊旅行統計調査 https://www.mlit.go.jp/kankocho/siryou/toukei/shukuhakutoukei.html	（2020年10月）301,930人泊 （2019年10月）10,262,020人泊